

1 関節リウマチはどんな病気ですか？

関節リウマチとは、免疫の異常により全身の関節に炎症が起こり、関節の痛みと腫れをきたす病気です。病気が進行すると、関節が変形して機能が障害されてしまうことがあります。病気の原因はまだ明らかではありませんが、喫煙や歯周病との関連が知られています。

検査のはなし vol.13

専門医が解説する 病気の検査 …17

「関節リウマチ」

日本臨床検査専門医会
三枝 淳



2 どのような症状が出ますか？

主な症状は、複数の関節の痛みと腫れです。手足の指などの小さな関節に症状が出ることも多いですが、膝、肩、肘などの大きな関節にも症状が出ます。朝起きたときの関節を動かしにくさ（朝のこわばり）を感じることもよくあります。また、関節リウマチは全身疾患ですので、肺炎などを合併することもあります。

4 どのような治療法がありますか？

昔は痛みを軽減させるのが精一杯でしたが、最近は生物学的製剤やJAK阻害薬といった強力な薬剤が登場し、痛みや腫れを抑えるだけでなく、関節の変形を防ぐことも可能となりました。

3 関節リウマチの検査には どのようなものがありますか？

病気を診断するうえで重要な血液検査は、抗シトルリン化ペプチド（CCP）抗体とリウマトイド因子（RF）です。抗CCP抗体とRFは、関節リウマチ患者さんの約80%で陽性となります。一方、いずれの検査も約20%の患者さんでは陰性となりますし、健康な人でもこれらの検査が陽性となることがあります。したがって、関節リウマチの診断は、症状、血液検査、画像検査の結果から総合的に判断することになります。画像検査としては、レントゲン、超音波（エコー）、MRI検査が行われます。

また、関節リウマチの病気の勢い（疾患活動性）をみる血液検査として、CRPや赤血球沈降速度（ESR）、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）があります。リウマチの勢いが強いときには、これらの数値が上がる傾向があります。ただし、CRPやESRは感染症でも高値となるので注意が必要です。

